

次代へつなぐ 伝統の代神楽舞

小鯖

生活スタイルの多様化や少子高齢化により、各地で顕在化している民俗芸能や祭りなどの承継問題。それは小鯖地域で受け継がれてきた「小鯖代神楽舞」も同様。自治会長として、また、地域の氏神、鰐鳴八幡宮の宮司として、地域活性に奮闘する古屋倫史さんにお話を伺った。

Real Voice 4

鰐鳴八幡宮 宮司 古屋倫史さん

鼻舞(天狗)が扇やささらで獅子をからかう。それに獅子が反応し、乱舞する。主役の鼻舞は代々小学生が務める。



【小鯖代神楽舞】江戸時代初期、住民の家内安全・繁昌を祈って、鰐鳴八幡宮の氏子代表を伊勢に参らせ伝承を受けたのが起源といわれる。古来、八幡宮のある宮河内地区の住民により受け継がれてきた。太鼓笛鉦の合奏にのせて、獅子と、天狗面に赤服の「鼻舞」が舞い踊り、「ひょうげ鉦」と「おたま」の2人がその周りで男女和楽の所作を演じ興を添える。山口県指定無形民俗文化財。

伝統の代神楽舞を守るには
若い人の力が必要

大小の太鼓、笛、鉦の合奏による軽快なお囃子にのせて、真っ赤な装束に天狗面のかわいらしい「鼻舞」とそれにのせられた「獅子」が舞う。どこかコミカルで楽しい雰囲気のある小鯖代神楽舞。山口県の指定無形民俗文化財にも指定されている地域の伝統芸能だ。現在、日本全国で生活スタイルの多様化や少子高齢化により多くの地域でこうした伝統芸能や祭りの存続が危ぶまれている。小鯖代神楽舞も例外ではない。「小鯖代神楽舞は、江戸時代の初めごろに伊勢から伝わったとされています。かつては五穀豊稔の祈念や豊作の感謝、その他慶事に招かれて行っていました。現在は毎年10月の最終日曜日に開催される鰐鳴八幡宮(通称「小鯖八幡宮」)の秋祭りでの住民の家内安全と繁昌を祈って奉納されるのが唯一のお披露目の場です。当日はたくさんの方が見に来られて盛り上がりです」と話すのは、小鯖代神楽舞保存会の会長で小鯖八幡宮の宮司でもある古屋倫史さん。「八幡宮のある宮河内地区の人たちが代々受け継いでやってきましたが、今は小鯖の他の地区からも参加者を募り、次代につなぐためにみんな必死に頑張っています」と、少子高齢化が進む小鯖地域で伝統芸能を守り続けることの難しさを話してくれた。「気づけばメンバーのほとんどが



高齢者。代神楽舞を継承するために、一人でも多くの若者に参加してもらいたいですね。特に主役の鼻舞は子ども(小学生)が務めるのが伝統。そのためには小鯖に若い人を呼び込む必要があります。小鯖の魅力積極的に発信することも私たちの役割だと考えています」。

小鯖の魅力は豊かな自然と、生活のしやすさ、温かな人々

「小鯖の魅力は、見ての通りののどかな風景。気候も温暖で過ごしやすいです。でもそれだけでなく市中心部と防府市のどちらにも車で20分程度で行ける便利な立地も大きな魅力です」と古屋さん。企業が集まるエリアや商業施設にも近く、学校や病院も揃う、住みやすい地域だという。また、小鯖八幡宮が位置する小鯖3区は、人と人とのつながりが



取材の様子は
動画でもご覧
いただけます。



1.八幡宮周辺は防府市にも
ほど近いエリア。温暖な気候で
のどかな田園が広がる。2.神
職の家らしく古屋さん自宅の
門にも注連縄が。濃とした空
気が漂う。



代神楽舞は地域の魂。未来永劫続くものにしていきたい。

鰐鳴八幡宮

平安時代の中頃に宇佐八幡宮(大分県)から
勧請したと伝えられる。不思議な「鰐鳴」の名の
由来は、神霊を宇佐に迎えに行つての帰途、神
様を慕いついてきていた鰐が別れを惜しんで鳴
いたという故事による。秋には参道の両脇に彼
岸花が真っ赤に咲き誇る。本殿と拝殿は市の
有形文化財に指定されている。

山口市上小鯖583

<http://o3880000goo.web.fc2.com>



ひょっとこ面、すりこぎをもった「ひょうげ爺」と、おた
ふく面、しゃもじをもった「おたま」。舞場を面白おか
しく舞い歩く。いわゆる狂言回しのような存在。



1.8月頃から週2回程度の練習で秋祭りでの奉納に備える。2.祭りの日、
普段神社におられる神様は神輿にのって「お出掛け」。参道入口にある
御旅所までを往復する。3.山口の祭りは「餅まき」で締め上げるのが定番。



舞い踊り、高揚した獅子は、右手に扇、左手
に傘を持ち、天高く舞い上がる姿になる。鼻
舞役が獅子となり、人の肩の上に立ち場内を
まわる。アクロバティックで観客も盛り上がる、
小鯖代神楽舞のハイライト。



大太鼓、小太鼓、鉦、笛からなるお囃子。古屋さん
も笛で参加(右端)。

小鯖を知ってもらうことが 代神楽舞の未来を守ること

「毎年9月頃は、200メートル近
くある八幡宮の参道の両脇は彼岸花
で埋め尽くされて真っ赤になります。

密なのとか。「昔から住んでいる人
が多いので、みんな心が知れてい
て、自然と助け合える地域です。代
神楽舞をはじめとする地域の伝統を
理解してくださる方なら、すぐに距
離は縮まると思います。小鯖3区は
農業振興地域ですし、気候も良いの
で、農業がしたい、コミュニケーション
を図るのが好き、代神楽舞に興味が
ある、そんな三拍子揃った方がいれ
ば、すぐにでも私を訪ねてきてほし
いです(笑)」。

その様子がSNSに投稿され、映
える」と瞬く間に評判になりました。
彼岸花の時期には開花状況に関する
問い合わせが本当に増えましたね。
今は八幡宮のホームページにブログを
つけて、その日の花の様子を写真で
載せるようにしています」。彼岸花効
果で、近隣だけでなく広島や九州か
らの来訪者も増えている。ここ数年
は彼岸花が満開を迎える時期に合わ
せ、境内で有志によるイベントも開
催。「ブログやイベントは小鯖に足を
運ぶきっかけになっているはず。ま
ずは肌で地域を感じ、魅力を知り、最
終的にはここで暮らしたい、代神楽
舞をやりたいと思ってもらえれば嬉
しいです」。古屋さんは今年で72歳。
しかし、小鯖代神楽舞を次代につな
ぐため、まだまだ走り続ける。